



知れば知るほどオモシロい! 万博コラム

第4回 今一度「太陽の塔」について

大阪府吹田市の万博記念公園、その芝生の中央にそびえる太陽の塔。塔の頂部には未来を表す「黄金の顔」、正面には現在を表す「太陽の顔」、そして背面には過去を表す「黒い太陽」が施され、当時の万博のエネルギーを今も感じることができます。

日本ではじめて開催された「日本万国博覧会」で、建築家・丹下健三氏が様々なイベントを行うための「お祭り広場」を設計。その中心にシンボルとして芸術家・岡本太郎氏が塔のデザインを担当することになったのですが、丹下デザインの広場の屋根に穴を開けて塔をつくると言い出したのです。

二人とも自分のデザインを主張し、激しい口論になったと言われています。結局、丹下氏が折れて屋根の真ん中を開けるよう設計しなおし、約70mもの高さのシンボルが完成したのです。

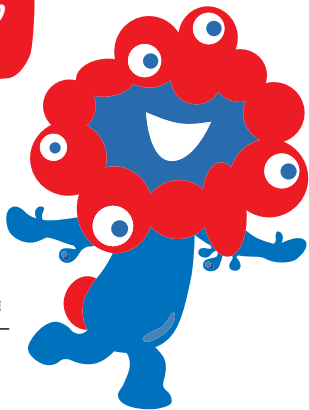
2025年「大阪・関西万博」の会場のシンボルは、デ

ザインプロデューサー・藤本壮介氏による「大屋根リング」。世界最大級の木造建築物だそうです。



大阪モノレールの、ラッピング列車「EXPO TRAIN 2025 大阪モノレール号」の車窓から見える太陽の塔。1970年「日本万国博覧会」から2025年「大阪・関西万博」、55年という時の流れを感じさせます。

おしえて!
ミャクミャク
vol.6



大阪・関西万博
公式キャラクター
ミャクミャク
©Expo 2025

Q.大阪・関西万博とSDGsの関わりについて知りたいです

A ●大阪・関西万博とSDGsのつながり

SDGs達成の目標年である2030年まで残り5年、この2025年に開催される大阪・関西万博は「SDGs万博」とも呼ばれ、目標達成のための基盤となるイベントです。

世界が一つになってSDGs達成をめざす姿は、「いのち輝く未来社会」という大阪・関西万博のテーマと合致しており、目標達成に大きく貢献するとみられています。



●各出展者の取り組み

パビリオン出展者はSDGs目標を1つ盛り込む決まりとなっています。例えば「大阪ヘルスケアパビリオン」では「REBORN」をテーマに、水の可能性に着目。目標3・6・11・14に関連する「ミライ人間洗濯機」の展示が予定されています。

昇陽高校生が ホテル・ロッジ舞洲の美観活動に参加し SDGsについて学びました



枯れ草や落ち葉を丁寧に集めながら、自然環境に触れる貴重な体験をしました。



落ち葉を腐葉土に再生するこの取り組み(バイオネスト)は、土壌改良や植物の成長促進に役立てるもので、自然資源を無駄にせず有効活用するSDGsの一環です。

大阪・関西万博100日前イベント このはな万博vol.3 行ッコ! ディスコ!!



【日時】1/25 (土)

〈地域の皆さんのステージパフォーマンス〉16:00～

〈懐かしのディスコソングでノリノリ〉18:00～

〈お楽しみ抽選会で盛り上がりましょう♪〉20:00～

【同時開催】11:00～14:30「此花マルシェ」で物販や飲食ブースも出展します。

【場所】此花区民一休ホール

【問合せ】大阪カラース ☎090-9284-0627 (坂本)